

# 資料展示 群馬と映画

期間:平成19年2月8日(水)～3月25日(日) 場所:群馬県立図書館3階展示コーナー

群馬県立図書館では、群馬県関連の郷土資料を重点的に収集、利用提供、保存に努めており、これらの中から、特色ある地域資料を幅広く紹介しています。

今回の資料展示では、「群馬と映画」と題し、群馬県にゆかりのある映画人や作品に関連する資料を展示します。

## 展示資料について

本展示は、関連の図書・雑誌等の一端を紹介するもので、全ての資料等を網羅的に紹介するものではありません。ここに展示した68点の資料は、所蔵資料の一部です。

展示資料は、一般資料を除き郷土資料です。通常は2階調査相談室の郷土資料コーナーにあり、いつでも閲覧できます。「+」記号の付いたものは複本があるもので、展示期間中でも貸出できます。「\*」記号の付いたものは、通常は貸出可能な一般資料で、「△」記号の付いたものは雑誌です。

なお、展示されていない所蔵資料のことや展示資料の貸出等のご相談は、2階調査相談室で受け付けておりますので、お申し付けください。

## ○群馬と映画

- + 1 野中興業三十年の歩み  
山口秀夫／著 野中興業 1973
- 2 第2回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 1988
- 3 第3回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 1989
- 4 第4回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 1990
- 5 第5回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 1991
- 6 第6回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 1992
- 7 第7回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 1993
- 8 第8回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 1994
- 9 第9回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 1995
- 10 第10回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 1996
- 11 第11回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 1997
- 12 第12回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 1998
- 13 第13回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 1999
- 14 第14回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 2000
- 15 第15回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 2001
- 16 第16回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 2002
- 17 第18回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 2004
- 18 第19回高崎映画祭パンフレット  
高崎映画祭運営委員会 2005
- + 19 日本映画史探訪「映画への思い」  
第1回田中純一郎記念日本映画史フェスティバル実行委員会 1998
- + 20 日本映画史探訪2「映画への思い」  
第2回田中純一郎記念日本映画史フェスティバル実行委員会 1999

- + 2 1 日本映画史探訪3「映画への思い」  
第3回田中純一郎記念日本映画史フェスティバル実行委員会 2000
- + 2 2 日本映画史探訪4「映画への思い」  
第4回田中純一郎記念日本映画史フェスティバル実行委員会 2001
- + 2 3 日本映画史探訪5「映画への思い」  
第5回田中純一郎記念日本映画史フェスティバル実行委員会 2002
- + 2 4 日本映画史探訪6「映画への思い」  
新田町文化スポーツ事業団 2003

## ○群馬の映画人

**田中純一郎 1902～1989** 本名松倉壽一 旧新田町出身、映画史家・映画評論家  
キネマ旬報社の編集責任者として活躍したほか、「日本映画発達史」などを著す。また、  
「映画女優」（1987年 監督市川崑 主演吉永小百合）に映画史監修として参加。

- \* 2 5 日本映画発達史 I  
田中純一郎／著 中央公論社 1957
- \* 2 6 日本映画発達史 II  
田中純一郎／著 中央公論社 1957
- \* 2 7 日本映画発達史 III  
田中純一郎／著 中央公論社 1957
- \* 2 8 日本映画発達史 IV  
田中純一郎／著 中央公論社 1968

**八木保太郎 1903～1987** 高崎市出身、脚本家

日活を振り出しに東宝、東映などで脚本家として「米」（1957年 監督今井正 出演  
江原真二郎、中原ひとみ）をはじめ映画史に残る作品を手がける。

- \* 2 9 今井正「全仕事」 スクリーンのある人生  
映画の本工房ありす／編 ACT 1990
- + 3 0 群馬県立土屋文明記念文学館蔵 八木保太郎文庫資料目録  
群馬県立土屋文明記念文学館 2004
- △ 3 1 キネマ旬報 1987年11月上旬号  
キネマ旬報社 1987

・参考展示

シナリオ・決定稿 橋のない川

「橋のない川」製作上映委員会 1969（群馬県立土屋文明記念文学館所蔵）

**金子 正且 1918～** 桐生市出身、映画プロデューサー

東宝の映画製作者として「小早川家の秋」（1961年 監督小津安二郎 出演二代目  
中村雁治郎、原節子）をはじめ、成瀬巳喜男監督や岡本喜八監督などの作品を手がける。

- + 3 2 その場所に映画ありて プロデューサー金子正且の仕事  
金子正且・鈴木たけし／著 ワイズ出版 2004

**市川 喜一 1923～2006** 高崎市出身、映画プロデューサー

フリーの映画製作者として、「犬神家の一族」（1976年 監督市川崑 原作横溝正史  
出演石坂浩二、高峰三枝子）をはじめ、大作や評価の高い傑作を手がける。

- △ 3 3 キネマ旬報 2006年7月上旬号  
キネマ旬報社 2006

**中島源太郎 1929～1992** 旧尾島町出身、映画プロデューサー、政治家

大映で「宇宙人東京に現る」（1956年 監督島耕二 色彩指導岡本太郎）の原案な  
ど、作品の企画・製作を担当した。のちに政治家に転身、文部大臣等をつとめた。

- \* 3 4 ガメラ画報  
イオン／編 竹書房 1996

**田村 孟 1933～1997** 旧妙義町出身、脚本家

大島渚監督作品の多くを担当したほか、篠田正浩監督作品や長谷川和彦監督の初監督作  
品「青春の殺人者」（1976年 主演水谷豊）なども担当している。

- 3 5 田村孟 人とシナリオ  
「田村孟 人とシナリオ」出版委員会／編 シナリオ作家協会 2001
- △ 3 6 キネマ旬報 1997年6月上旬号  
キネマ旬報社 1997

**大澤 豊 1935～** 高崎市出身、映画監督・プロデューサー

児童映画を多く製作しているほか、壘球の女優忍足亜希子を発掘し、彼女の初主演作品  
となる「アイ・ラヴ・ユー」（1999年）などの作品の監督をつとめた。

- \* 3 7 アイ・ラヴ・ピース  
大澤豊・山本洋子／著 ひくまの出版 2003

**堀川とんこう 1937～** 本名敦厚（読みは同じ）、中之条町出身、映画監督

TBSで演出家・プロデューサーとして活躍したのち、映画監督に転身し、「千年の恋  
ひかる源氏物語」（2001年 出演天海祐希、吉永小百合）の監督をつとめた。

- \* 3 8 ずっとドラマを作ってきた

- 堀川とんこう／著 新潮社 1998  
 △39 キネマ旬報 2001年12月上旬号  
 キネマ旬報社 2001
- 曾根 中生 1937～ 本名義忠、旧子持村出身、映画監督  
 日活の路線変更によりポルノ映画の監督作品が多いが、一般映画としても「不連続殺人事件」（1977年 原作坂口安吾 出演内田裕也）などの監督作品がある。  
 \*40 A T G映画の全貌 日本映画篇  
 佐藤正隆／編集企画 夏書館 1979  
 \*41 日活ロマンポルノ全史 名作・名優・名監督たち  
 松島利行／著 講談社 2000
- 小栗 康平 1945～ 前橋市出身、映画監督  
 浦山桐郎らの作品の助監督やテレビ映画「流星人間ゾーン」の監督を経て、劇場用作品として最初の作品「泥の河」（1980年 出演田村高廣、加賀まりこ）を監督した。  
 +42 映画を見る眼  
 小栗康平／著 日本放送出版協会 2005
- 原 恵一 1959～ 館林市出身、アニメーション監督  
 脚本・監督をつとめた「クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶモーレツ！オトナ帝国の逆襲」（2001年）と翌年の「アッパレ！戦国大合戦」は高い評価を受ける。  
 △43 キネマ旬報 2002年4月下旬号  
 キネマ旬報社 2002
- 清水 崇 1972～ 前橋市出身、映画監督  
 ビデオ作品「呪怨」で注目され、同作のリメイク「THE JUON」（2004年 主演サラ・ミシェル・ゲラー）でハリウッド進出を果たした。  
 +44 寿恩  
 清水崇／著 ぴあ 2005

## ○群馬にゆかりのある作品

- 「忠次旅日記」（1927年日活）  
 長らく幻の名作として語り継がれてきたが、近年不完全ながら復元版が公開された。  
 原作・脚本・監督：伊藤大輔  
 出演：大河内傳次郎、中村英雄、尾上卯太五郎、伏見直江  
 △45 キネマ旬報 1992年12月上旬号  
 キネマ旬報社 1992  
 \*46 銀幕ロマン館 時代劇スター大行進  
 山根貞男／責任編集 淡交社 1997
- 「マダムと女房」（1931年松竹）  
 日本最初のトーキー映画。劇作家の日常をコメディタッチで描いている。  
 監督：五所平之助 原作・脚本：北村小松 撮影地：浅間高原（草軽鉄道）  
 出演：田中絹代、渡辺篤、伊達里子、坂本武、小林十九二  
 \*47 日本映画200  
 キネマ旬報社 1982  
 \*48 夢のトーキー映画時代来たる（歴史への招待24）  
 日本放送出版協会 1982
- 「達磨寺のドイツ人」（1941年）  
 ブルーノ・タウトをモデルにした作品。黒澤明の監督デビュー前の習作のひとつ。  
 脚本：黒澤明  
 未映像化  
 \*49 全集 黒澤明 第1巻  
 黒澤明／著 岩波書店 1987
- 「カルメン故郷に帰る」（1951年松竹）  
 日本初の長編カラー映画。都会でストリッパーをしている女性の帰郷をめぐる喜劇。  
 監督・脚本：木下恵介 撮影地：浅間高原  
 出演：高峰秀子、小林トシ子、笠智衆、佐野周二、佐田啓二  
 \*50 木下恵介の映画  
 佐藤忠男／著 芳賀書店 1984  
 +51 思い出のアルバム 草軽電鉄  
 思い出のアルバム草軽電鉄刊行会／編 郷土出版社 1987  
 \*52 キネマの世紀 映画の百年、松竹の百年  
 松竹映像本部映像渉外室 1995
- 「浮雲」（1955年東宝）  
 男女の悲恋を描いた名匠成瀬巳喜男の代表作のひとつ。  
 監督：成瀬巳喜男 原作：林芙美子 脚本：水木洋子 主な舞台：伊香保温泉  
 出演：高峰秀子、森雅之、中北千枝子、岡田茉莉子、加東大介  
 \*53 映畫読本 成瀬巳喜男

田中真澄ほか／編 フィルムアート社 1995

「ここに泉あり」(1955年中央映画)

群馬交響楽団創建期を描いた作品。

監督：今井正 脚本：水木洋子 製作：岩崎昶、市川喜一  
出演：小林桂樹、岸恵子、岡田英次、加東大介、山田耕筈

+54 ここに泉あり 群馬県後援会 パンフレット

「ここに泉あり」群馬県後援会 1954

\*55 映画100物語・日本映画編 1921～1995

読売新聞社 1995

「人間の証明」(1977年角川春樹事務所)

黒人青年殺害事件に端を発した日米にまたがる事件をめぐる複雑な人間関係。

監督：佐藤純彌 原作：森村誠一 脚本：松山善三 主な舞台：霧積高原

出演：松田優作、岡田茉莉子、ハナ肇、ジョージ・ケネディ、三船敏郎

△56 キネマ旬報 1977年10月上旬号

キネマ旬報社 1977

「男はつらいよ 寅次郎ハイビスカスの花」(1980年松竹)

沖縄を舞台に描くシリーズ最高傑作と呼ばれる25作目。後に再編集版も公開された。

監督：山田洋次 脚本：山田洋次・朝間義隆 撮影地：六合村

出演：渥美清、浅丘ルリ子、倍賞千恵子、下条正巳、笠智衆

\*57 新・男はつらいよの世界

吉村英夫／著 シネ・フロント社 1989

「一ノ倉沢」(1980年)

昭和55年第6回城戸賞に入選した作品。

脚本：小林伸男

未映像化

△58 キネマ旬報 1981年2月上旬号

キネマ旬報社 1981

「"BLOW THE NIGHT!" 夜をぶっとばせ」(1983年フィルムワーカーズ)

非行少女のすさんだ生活を本人を主演に描いた作品。

監督：曾根中生 脚本：中田玲子、曾根中生 撮影地：前橋市

出演：高田奈美江、可愛かずみ、小松由佳、滝田裕介、森山周一郎

59 ざけんじゃねえヨ! 非行少女原点ノート

高田奈美江／著 勁文社 1983

・特別展示

「"BLOW THE NIGHT!" 夜をぶっとばせ」ポスター(群馬県立歴史博物館所蔵大林コレクション)

「春駒のうた」(1986年共同映画全国系列会議＝群馬共同映画社)

利根郡の学校に着任した女教師と足の不自由な少年との交流。

監督：神山征二郎 原作：宮川ひろ

出演：田村高廣、二木てるみ、左幸子、樹木希林、香川京子

+60 春駒のうた

宮川ひろ／著 偕成社 1971

・特別展示

「春駒のうた」ポスター(群馬県立歴史博物館所蔵大林コレクション)

「刑事物語5 やまびこの詩」(1987年東宝＝キネマ旬報社)

沼田市に着任した人情刑事が何者かに狙われた姉妹を助ける。

監督：杉村六郎 原案：片山蒼(武田鉄矢) 撮影地：沼田市ほか

出演：武田鉄矢、賀来千香子、鈴木保奈美、井川比佐志、小林桂樹

△61 キネマ旬報 1987年5月下旬号

キネマ旬報社 1987

「眠る男」(1996年「眠る男」制作委員会)

群馬県人口200万人記念映画として製作された。

監督：小栗康平 脚本：小栗康平、剣持潔

出演：役所広司、安聖基、クリスティン・ハキム、岸部一徳、田村高廣

+62 眠る男 大いなる記憶

上毛新聞社編集局／編 上毛新聞社 1995

「月とキャベツ」(1996年西友＝エースピクチャーズ)

キャベツを育てながら隠遁生活をおくるミュージシャンと謎の少女との交流。

監督：篠原哲雄 原案：鶴間香 撮影地：中之条町ほか

出演：山崎まさよし、真田麻垂美、鶴見辰吾、ダンカン、中村久美

△63 シナリオ 1997年1月号

シナリオ作家協会 1997

「のど自慢」(1999年シネカノンほか)

のど自慢出演を目指す人々を3人の男女を中心に描く群像劇。

監督：井筒和幸 脚本：安倍照男、井筒和幸 撮影地：桐生市

出演：室井滋、大友康平、伊藤歩、尾藤イサオ、竹中直人

\* 64 「のど自慢」な人びと

「のど自慢」な人びと製作委員会／編 文藝春秋 1998

「光の雨」(2001年シー・アイ・エー＝エルクインフィニティ＝衛星劇場)

連合赤軍山岳ベース事件を描く一方、劇中劇の形式で現代の視点から振り返っている。

監督：高橋伴明 原作：立松和平 主な舞台：榛名山

出演：萩原聖人、大杉漣、裕木奈江、池内万作、山本太郎

△65 シナリオ 2002年1月号

シナリオ作家協会 2002

「かまち」(2003年日本ヘラルド映画ほか)

夭折した山田かまちを描いた作品。

監督：望月六郎 原作：山田千鶴子「かまちの海」 撮影地：高崎市

出演：谷内伸也、古屋敬多、鍵本輝、中土居宏宜、大沢あかね、壇ふみ

+66 かまちの海

山田千鶴子／著 文藝春秋 2001

△67 シナリオ 2004年4月号

シナリオ作家協会 2004

「リンダ リンダ リンダ」(2005年ビターズエンド)

女子高生バンドが韓国人留学生をメンバーに迎え、文化祭に出演するまでの3日間。

監督：山下敦弘 脚本：向井康介、宮下和雅子、山下敦弘 撮影地：前橋市

出演：ペ・ドゥナ、前田亜季、香椎由宇、関根史織、湯川潮音

\* 68 リンダ リンダ リンダ オフィシャルブック

『リンダ リンダ リンダ』パートナーズ／監修 太田出版 2005